

地域・社会貢献

国や地域の文化を尊重し、事業活動等を通して地域や社会に参画し、調和を図ると同時に、持続可能な社会の実現に向け、積極的に貢献します。



マネジメントアプローチ	82
貧困問題の解消／教育支援	83
地域社会との調和	86
活動実績 教育支援	90

マネジメントアプローチ

基本方針

国や地域の文化を尊重し、事業活動等を通して地域や社会に参画し、調和を図ると同時に、持続可能な社会の実現に向け、積極的に貢献します。

貧困問題の解消

新興国はもとより日本国内においても貧困は大きな社会問題となっています。いすゞは、自動車メーカーのノウハウを活用するとともに従業員参加型の社会貢献活動を積極的に展開します。

教育支援

いすゞの得意とする「ものづくり」の視点から、職業体験、環境教育、芸術体験などの教育機会の提供に努めています。

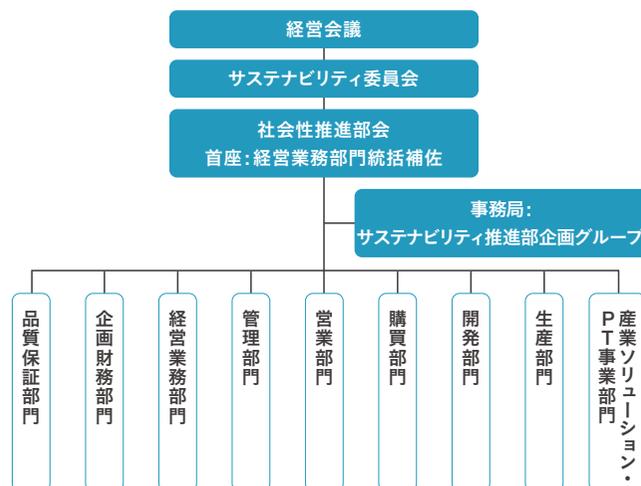
地域社会との調和

いすゞの事業所周辺地域の皆様から、地域の一員として信頼されるとともに、地域社会の発展に貢献するための活動に取り組んでいます。

体制

「社会性推進部会」を定期開催しており、社内各部門から選出された推進委員が新たな取り組みや活動のレベルアップに向けて活発な議論を行っています。

社会性推進部会組織図



従業員参加を促す仕組み

全社メールやポスターを使って従業員参加を促すとともに、活動結果を「社内報」やいすゞの「Webサイト」「コミュニティーサイト」等で社内外に広く発信しています。

外部イニシアチブの支持や業界団体との連携

各団体と連携・協力しながら従業員参加型の活動を推進しています。

- ▶ 国際協力NGOワールド・ビジョン
- ▶ 公益財団法人オイスカ
- ▶ 特定非営利活動法人TABLE FOR TWO International
- ▶ 認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパン

貧困問題の解消／教育支援

自動車整備士養成学校における教育支援活動

2008年11月より、いすゞの創立70周年を機に立ち上げた独自の社会貢献活動プロジェクトの一環として、フィリピン・レイテ島タクロパン市のフィリピン労働雇用省技術教育技能開発庁 (TESDA^{※1}) において、経済的に恵まれない若者を対象とした自動車整備士養成学校に対する教育支援活動を行っています。

この活動は、単なる資金援助にとどまらず、自社のノウハウを活かした支援を行っています。具体的には、日本の指導員を現地に派遣し、技術教育支援を目的とする「いすゞ塾」という取り組みを確立しています。それによって同校では、電気、トランスミッション、エンジン、ブレーキなどに関する高い整備技能に加えて、5S (整理・整頓・清掃・清潔・躰) 活動の考え方も身に付くことから、卒業生は就職先で高い評価を受けています。

2020年10月末日には17期生の卒業式と在校生の終業式が行われ、2021年3月末日には19期生の入学式が行われました。

17期の卒業生36人は、全員、フィリピンにおける自動車整備士の最高国家資格であるNC4に合格し、2020年11月にいすゞ系販売会社などに就職しました。

これまでに、この自動車整備士養成学校卒業生は、17期生を含めて317人になり、多くがフィリピン国内販売会社や海外で活躍しています。日本で就職する卒業生も増えており、2019年から現在までに8人の卒業生が日本国内のいすゞ販売会社で活躍しています。技能面における評価も高く、I-1GP^{※2}では、過去2回の優勝を果たすなど、同校卒業生の高い技術力と活動の考え方を身に付けており就職先から高い評価を受けています。

※1 Technical Education and Skills Development Authority

※2 いすゞワールドサービス技能コンテスト (I-1GP)。世界各国／地域から優秀なサービススタッフ・エンジニアが集い、技術力と知識を競い合うことで各国のサービスレベルを向上させ、いつでもどこでもいすゞのお客様に最高の満足を提供できるようにすることを目的とした、国別／地域別対抗戦で世界No.1を競う技能コンテスト



19期生入学式典



車両分解作業の実習

国内外における競技大会での活躍

- ▶ I-1GP 上位入賞 (2015年度 CV 優勝、2016年度 CV3位 / LCV2位、2018年度 CV 優勝)
- ▶ 2017年度 TESDA フィリピン全国競技大会第1位、2018年度 アセアン大会出場いすゞグループでの活躍
- ▶ 2018年度日本 (いすゞ自動車首都圏・MSTC) で3人の卒業生を受け入れ実施、いすゞグループで活躍中
- ▶ 2019年度日本 (いすゞ首都圏・いすゞ自動車近畿 (株)) で6人の卒業生を受け入れ実施、いすゞグループでさらに活躍
- ▶ 2020年 I-1 グランプリ e-competition 3位入賞 (選手2人 TESDA 卒業生) フィリピンにおける同プロジェクトの評価
- ▶ 2008年度 TESDA 本局、大統領府より表彰
- ▶ 2009年度 TESDA 全国レベル最高賞 KABALIKAT 賞受賞 マラカニアン宮殿にてアロヨ大統領より表彰
- ▶ 2017年度 SPMJ (Society of Philippine Motoring Journalists) CSR 教育カテゴリー金賞受賞

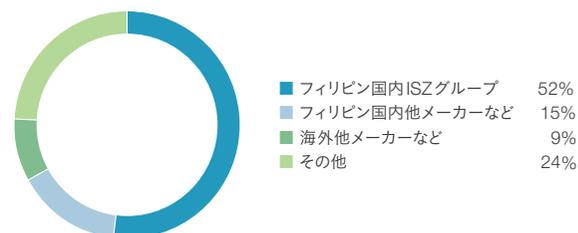


2020年 I-1 e-competition 3位入賞



日本国内のいすゞ販売会社で働く卒業生

卒業生の就労状況 (2021年4月時点)



貧困問題の解消／教育支援

「いすゞものづくり体験ワークショップ」をオンラインで開催

コロナ禍でも自宅で楽しめるようなワークショップとして、遠藤公民館の「PPトラック (PP = ポリプロピレン) 工作ワークショップ」のオンライン配信に協賛しました。PPトラック素材と作成動画を遠藤公民館に提供し、夏休み中自宅で過ごす子供たちにPPトラックを作ってもらい、ボディに好きなデザインを描いて楽しんでもらいました。でき上がった作品は、2020年9月29日から10月10日までいすゞプラザに展示され、それぞれの作品にいすゞのデザイナーから賞が贈られました。



いすゞプラザに展示された子供たちの作品



オンラインものづくり体験ワークショップ



PPトラック作成の様子

小学校で「DeuSEL® バスプロジェクト」の出張授業を実施

2020年度も小学5年生に向けたデューゼル出張授業を行いました。(2020年11月30日：川崎市立坂戸小学校、12月22日：品川区立品川学園、3月15日：海老名市立東柏ヶ谷小学校)

デューゼル出張授業は、トラック、バスの社会への役割を通じて、未来の燃料や地球環境の大切さを子供たちに知ってもらうことが目的です。小学校での同授業開催は6年目となり、毎回好評を得ています。

授業の内容としては、いすゞとユーグレナ社の担当者がデューゼルについて説明した後、デューゼルバスの試乗とミドリムシの観察を体験してもらいました。質疑応答の時間には、子供ならではの素直で核心を突く質問が多く寄せられ、担当者は休憩時間や授業終了後も質問攻めでした。

2020年度は、コロナ禍で授業の中止も検討されましたが、座学で得た知識を実体験に結び付けることで、子供たちの理解がより深まるはずとの考えから、感染予防対策をとったうえで(通常の対策に加え、バスの常時換気・乗下車時の手指消毒などを実施)、例年通りの内容で開催しました。

コロナ禍で多くの学校行事が中止になってしまいましたが、子供たちに少しでも楽しく学んだ記憶が残せることを願って活動しています。



熱心に授業を受ける児童



DeuSEL®バスに試乗する児童

貧困問題の解消／教育支援

富士山の森づくりに寄付

世界文化遺産に指定されている富士山（2013年ユネスコ登録）北麓域の豊かな森林や生態系の回復を目指し、「富士山の森づくり」に参画しています。具体的には、2008年度より植林活動に参加し、公益財団法人オイスカや山梨県森林整備生産事業協同組合などに協力しています。2020年度はコロナ禍の影響で、現地に赴いての植林活動が困難となったため、寄付による支援によって活動を継続しました。

2020年度「古本で!『子供の森』計画サポートプロジェクト」活動実績

「子供の森」計画は、公益財団法人オイスカが進めているプロジェクトで、子供たち自身の手で学校や地域に木を植え、育てるといった活動への支援を通して、「緑を大切にす気持ち」や「自然を愛する心」を育むことを目的にしています。いすゞは、このプロジェクトのサポートを2015年から開始しました。従業員が寄付した古本等を販売し、その買い取り額を「子供の森」計画への寄付金としています。

買取可能な冊数（過去3年分）

(冊)

	2018年度	2019年度	2020年度
大森本社	162	100	160
藤沢	392	430	76
栃木	13	15	0
合計	567	545	236

※実績集計方法を変更し、買取不可になった冊数を除外しました。

藤沢工場近隣の小学校で「神奈川フィル・オーケストラ・ファクトリー」に協賛

神奈川県藤沢市立片瀬小学校（2021年1月19日）と藤沢市立善行小学校（2月25日）で開催された神奈川フィルハーモニー管弦楽団による「オーケストラ・ファクトリー※」に協賛しました。

この活動は今年で7年目となり、児童たちに音楽を通じた体験を提供することで、創造性と豊かな感性を育むことを目指しています。

今後も、児童たちが「ものづくり」の一端に触れる機会を提供していきます。

※オーケストラ・ファクトリー：児童たちがオーケストラの生演奏を聴き、共演することを通じて、「大勢の人が心を一つにして力を合わせることで素晴らしい“もの”（=音楽）が創りだせること」を体験します。「工場でのものづくり」をイメージしてもらうことを狙っています



熱心に演奏を聴く児童



地域社会との調和

いすゞプラザ

設立目的

2017年4月、いすゞ自動車創立80周年記念事業の一環として、藤沢工場の隣接地に「いすゞプラザ」を開館しました。

いすゞプラザは、「『運ぶ』を支える」、「いすゞのくるまづくり」、「いすゞの歴史」の3つのゾーンで構成しており、いすゞをより身近に感じていただけるような施設を目指しています。

①「運ぶ」を支えるゾーン：

暮らしといすゞとの関わりを表現したジオラマ観賞や、最新のトラック、バスに触れることができます。

②いすゞのくるまづくりゾーン：

トラックがどのようにつくられてお客様に届くのか、トラックの構造や仕組み、環境への取り組みについて、体験を通じて知ることができます。

③いすゞの歴史ゾーン：

いすゞの歴史をレストア車両、ミニチュアモデルカー年表、当時の資料などで振り返りながら紹介します。

また、いすゞプラザでは、小学生を対象とした社会科見学の受け入れや、各種イベント、ものづくり教室、館内ガイドツアーの開催、ロビーのクールシェアへの登録など、地域の皆様とコミュニティをつなぐ交流施設としての役割も果たしていきます。

※新型コロナウイルス感染拡大防止のため一部中止しております。



プラザ外観



いすゞのくるまづくり



企画展コーナー



命を支えるコーナー

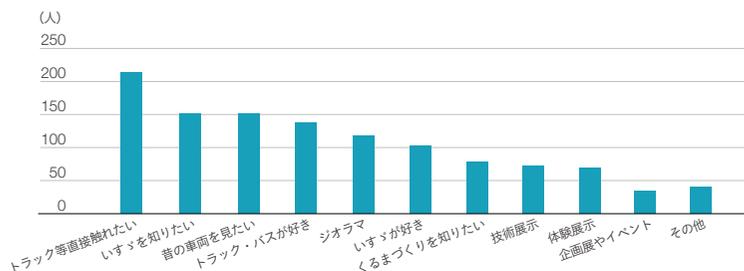
展示による社会貢献活動の紹介と推進

今年度より、展示やイベントにおいて、いすゞが行っている社会貢献活動をより積極的に紹介いたします。これによりステークホルダーの皆様へ、いすゞが製品を通じて行っている社会貢献や、社会貢献活動そのものにご理解をいただくとともに、それに従事するいすゞグループ従業員のモチベーション向上につなげ、さらなる社会貢献活動の推進を図ってまいります。

いすゞプラザホームページアドレス
<https://www.isuzu.co.jp/plaza/index.html>

地域社会との調和

いすゞプラザへの期待・ご来館の目的



展示内容の満足度



来館目的

レジャー・娯楽 73%
 学習 10%
 近くにきたから 3%
 企画展・イベント 2%
 調査・研究 2%
 ビジネス(お客様対応) 1%
 その他 9%

来館者のご意見

【感想】

- ▶ トラックができるまで事細かな工程を丁寧に説明して頂いたので、とても興味深かったです。
- ▶ 子供が遊びながら学べる仕組みがよかった。普段近くで見られない大きな車が見られて子どもは大喜びでした!
- ▶ 清潔感があり、感染症対策も十分できていたと感じた。
- ▶ 子供が体験型の展示の前で見ていると、こうするんだよーと声をかけていただいていた子供も楽しそうでした。
- ▶ マニュアルではなく人柄が溢れる接客をしていただきました。
- ▶ スタッフの子供へのまなざしが優しかった。企業の印象にもつながる要素に感じられて満足度が高かったです。

【要望】

- ▶ 予約数を増やしてほしい。
- ▶ 安全について展示が少なかった気がしました。子供向けならトラックの死角とかの展示もあればいいと思いました。
- ▶ ジオラマは説明箇所にスポットライトをあてるなど、遠目にも判る様な展示だと良いと感じた。
- ▶ 大きい子供や大人も勉強になるような、短時間の講習会やマニアックな説明会があると嬉しいです。

社会科見学の概要

2017年4月のいすゞプラザ開館より、毎年、小学5年生を対象に、いすゞプラザと隣接する「いすゞ藤沢工場」をセットにした見学コースによる「社会科見学」を提供・実施してきました。見学コースは、商用車の役割や製造工程、環境、安全について、実際に見て・触って・考えることで、深く理解していただける内容としています。しかしながら、2020年3月から現在まで、新型コロナウイルス感染拡大防止への対応から、藤沢工場は見学の受け入れを一時中止しており、それに伴いいすゞプラザの社会科見学も受け入れを中止しています。

社会科見学の実績

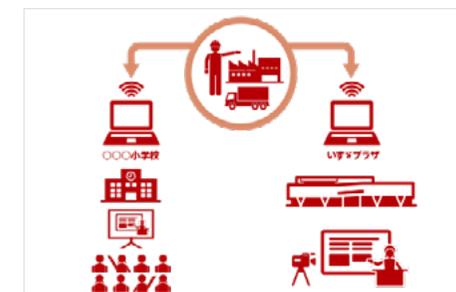


※1 コロナ禍により11校969人のキャンセルあり

※2 コロナ禍により受け入れ中止

リモート社会科見学の取り組み開始

2021年9月より、Webを活用した「バーチャル社会科見学」を本格的に展開します。コロナ禍において見学授業を行うことができない小学校への支援策とするだけでなく、遠隔地で自動車産業を学習する機会が少ない小学校への新たな提案としても積極的に進めてまいります。



バーチャル社会科見学概念図



バーチャル社会科見学(小学校)



バーチャル社会科見学(プラザ)

地域社会との調和

新型コロナウイルス感染拡大防止への対応

政府より発出された「緊急事態宣言」や、「まん延防止等重点措置」の要請内容、および日本博物館協会が策定した「博物館における新型コロナウイルス感染拡大予防ガイドライン」を基準に、「いすゞプラザ_新型コロナウイルス感染拡大防止対応*1」を策定し、来館者に安心・安全な環境のもとで見学していただけるよう努めています。

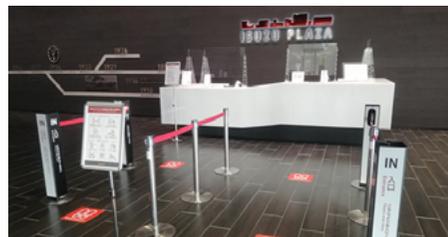
主な内容：

- ①「三つの密」発生回避への対応
- ②来館者および運営スタッフの安全確保への対応
- ③施設管理（清掃、消毒、換気）
- ④防止策の周知・徹底

いすゞプラザの運営については、緊急事態宣言発出時には臨時休館し、人流の抑制に努めました。さらに、開館時においても、来館者は完全予約制とし、時間当たりの来館者数制限も設け、キャパシティコントロールによって安全確保に努めました。また、館内においては、来館者とスタッフの検温・健康チェック・マスク着用の徹底、こまめな消毒・清掃の実施、アクリルパーテーションの設置、十分な換気等の感染拡大防止対策を行っています。



入口にて、検査・消毒を実施



受付カウンター前にアクリル板と待機マーカーを設置



密になり易いミニチュアワールドを定員制に変更



モニターで注意喚起

顧客満足度向上への取り組み

いすゞプラザは、来館者にご満足いただき、「いすゞファン」になっていただけることを目標としています。そこで、来館者の声を活かした運営・展示を実現すべく、2020年12月に予約情報システムの改修を行い、アンケート内容の見直しと入力の実便性向上を図りました。それによって今後は、来館者からいただいたご意見をもとに一層の改善に取り組み、皆様に愛される施設を目指してまいります。



QRエントリー概念図



スマートフォンによるQRエントリーのイメージ



アンケートの入力画面

地域社会との調和

2020年度「TABLE FOR TWO (TFT)プログラム」活動実績

従業員が健康的な食生活を送りながら社会貢献にも参加できるように、社内の食堂と喫茶室で「TABLE FOR TWOプログラム」(以下、TFT)を導入しています。これは、従業員が「ヘルシーメニュー」や「健康飲料」、「募金箱」を利用すると、自動的に10円が寄付され、そこにいすゞが同額を上乗せし、1人1回の利用あたり「合計20円」が寄付されるというプログラムです。寄付金は、特定非営利活動法人TABLE FOR TWO Internationalを通じて、開発途上国で飢餓や貧困に苦しむ子供たちの学校給食費として活用されています。



おにぎりアクション

給食提供数 (換算値)

(食)

	2018年度	2019年度	2020年度
大森本社	13,133	11,225	7,011
藤沢	3,937	3,426	2,411
栃木	1,267	1,620	1,786
合計	18,337	16,271	11,208

※TFTの支援国は、ウガンダ、エチオピア、タンザニア、ルワンダ、フィリピンの5カ国で、いずれもいすゞが事業を展開している国

2020年度「フードドライブ」活動実績

「フードドライブ」の取り組みを展開しています。これは、賞味期限が近づいた食品や食材を従業員が家庭から持ち寄り、認定NPO法人セカンドハーベスト・ジャパンを通じて地域の福祉団体や施設に寄付を行うものです。食品ロスを削減するとともに、社会福祉の向上にもつなげる活動です。



社内で集まった食品

2020年度「エコキャップ」活動実績

「エコキャップ」活動は、いすゞの従業員が提供・回収したペットボトルのキャップをリサイクルに回し、その買い取り額を、開発途上国の子供たちへ「ポリオワクチン」を届けている団体に寄付する活動です。

キャップ回収数

(個)

	2018年度	2019年度	2020年度
大森本社	115,417	120,708	58,250
藤沢	750,160	795,200	534,000
栃木	293,417	263,625	247,042
合計	1,158,994	1,179,533	839,292

※2020年度はポリオワクチン1,562人分を寄付しました。

活動実績 教育支援

児童養護施設などにケーキを寄贈

いすゞは、クリスマスの時期に、地域の児童施設などにケーキの寄贈を続けています。2020年度も大森地区（本社）、藤沢地区、栃木地区それぞれの幼稚園や保育園、児童養護施設などにクリスマスケーキなどを寄贈しました。この活動は、大森地区では1989年より始め、藤沢地区と栃木地区では2007年より行っています。



鈴木藤沢市長より感謝状贈呈（右）

「いすゞ仕事紹介」をオンラインで実施

2020年12月2日、12月5日の2日間、品川区立品川学園で「いすゞ仕事紹介」を実施しました。この取り組みは、品川区の「しながわドリームジョブ」の一環として開催したもので、さまざまな分野で活躍する企業や地域の方々の話を直に聞くことで、生徒が職業に興味を持ち、自分の将来について考え、夢を実現させる方法を学べる場となることを目的としています。いすゞ仕事紹介は2018年から実施しており、今回で3回目の開催となりました。

今回は、新型コロナウイルス感染拡大防止対策として、例年の学校訪問形式ではなく、初めてオンライン形式で実施しました。対象は中学1年生の生徒133人で、1日目は「いすゞ自動車の概要紹介」、2日目はいすゞ社員4人の「仕事紹介」映像を視聴してもらい、最後にTeamsのビデオ通話で質疑応答を行いました。質疑応答では、画面越しに生徒たちから次々と質問が寄せられ、強い手ごたえを感じることができました。今後もいすゞ仕事紹介を通じて、生徒たちに、普段は触れる機会の少ない「企業とそこで働く社員」をより身近に感じてもらい、将来の夢を育む取り組みを続けていく予定です。



オンラインいすゞ仕事紹介の様子

活動実績 教育支援

新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた社会貢献の取り組み

藤沢市・栃木市に対し、マスクと雨合羽を寄贈

いすゞでは、新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた地域貢献の取り組みの一環として、生産拠点のある藤沢市と栃木市に対してマスク（12,000枚、10,000枚）、雨合羽（120着、100着）を寄贈しました。これらの取り組みに対し、藤沢市・栃木市から感謝状をいただきました。



工場長と藤沢市長感謝状



大川栃木市長より感謝状贈呈（中央）

微酸性電解水の配布の実施

アルコール消毒液などの品不足に対応するため、いすゞテクノと生産部門が協業で微酸性電解水を生成し、藤沢工場内の消毒と、従業員への配布を行っています。

緊急事態宣言が発出された4月、新型コロナウイルスの感染拡大によって消毒液が不足するなか、工場の安全な稼働に向けて消毒を徹底させるため、除菌効果のある微酸性電解水生成装置を導入しました。同時に、コロナ禍の環境下での社会貢献を検討するなか、藤沢市の要請に基づき、4月24日からいすゞプラザにて、近隣住民の皆様へ微酸性電解水の配布を藤沢市の各施設と同様に実施しました。住民の皆様からは大変ご好評を頂いており、8月31日時点で合計4,323人の方々にご来場いただきました。また、栃木工場も栃木市に電解水を提供し、5月15日から市内6地域で配布がおこなわれました。住民の皆様からは大変ご好評を頂いており、8月18日時点で合計1,960人の方々にご来場いただきました。



微酸性電解水配布の様子



電解水配布

知的財産に関する新型コロナウイルス感染対策 支援宣言への賛同

いすゞは、「知的財産に関する新型コロナウイルス感染対策支援宣言」に賛同しました。新型コロナウイルス感染症の診断、予防、封じ込め、および治療をはじめとする、新型コロナウイルス感染症のまん延終結を唯一の目的とした行為に対しては、一切の対価や補償を求めることなく、我々が保有する特許権・実用新案権・意匠権・著作権の権利行使を一定期間行なわないことを宣言しました。